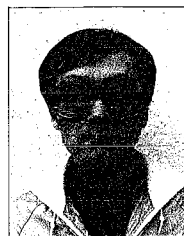


# 新井満の新潟再発見

～今、あなたに語りかける～



磯町出身。36歳。広告社の宣伝プロデューサー。「ポトアロ」を担当。シンガポールライターとしても有名。代表作は「ワインカラーのときめき」。エッセイ、評論もこなすマルチ人間。

## 再発見コース

### ＜1日目＞

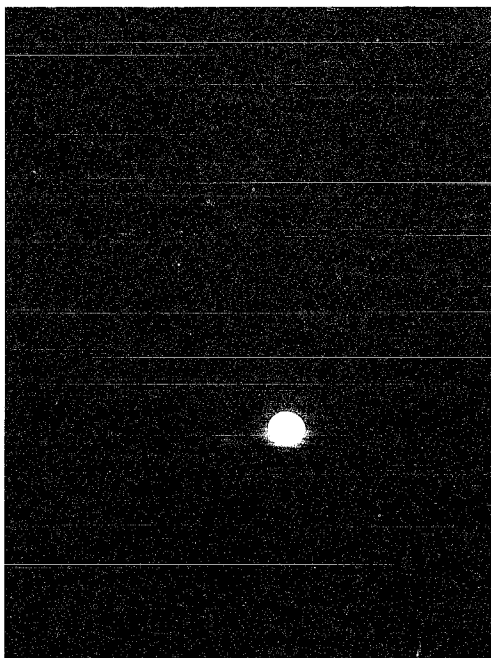
新幹線で新潟駅着  
↓  
万代橋、信濃川へり散歩  
↓  
信濃川舟めぐり（万代橋をくぐり、新潟西港へ）  
↓  
新潟西港（税関検査官と寸時会話）  
↓  
郷土資料館（石庫ら雨の女性旅行者に出会う）  
↓  
湊船荷神社（こま犬に願掛け）  
↓  
安吾の碑の前（日本海を眺望し、幼き日の思い出が次々）  
↓  
夜の古町、飲み屋へ（酒と肴、人情談議）  
↓  
ホテルで夜景を見る

### ＜2日目＞

白山浦の朝市（買い物を楽しむ）  
↓  
電車に乗って郊外へ  
↓  
酒蔵訪問（主人と酒談議）  
↓  
佐潟（新潟で一番高い場所から眺望）  
↓  
新潟駅へ

東京、横浜がイーストコーストなら新潟は日本のウエストコーストになるはず。佐渡に落ちてゆく夕日の美しさはたどえようもありません。日本、美しい夕日です。僕はふるさとに帰ると新潟海岸へ自転車走らせて、夕日を見に来ます。この同じ夕日を松尾芭蕉も北原白秋も見ただなま。

いつも感心するのは、夕日を見に来るのが僕だけじゃなくて、新潟市民の何十人、何百人という人がだまって沈んでゆく夕日を眺めている、ということです。僕は新潟っ子というのはとてもロマンチストだなぁって思います。



夕日 新潟は日本のウエストコーストだ



こま犬に願掛け（湊船荷神社）



## 安吾の碑から眺む

ふるさととは語ることなし

いろいろな文字碑が日本にありますが、安吾の言った「ふるさととは語ることなし」という言葉は最高に素晴らしいものです。なぜかと言えば、「ふるさととは語ることなし」と言い切りながら実は万感の思いをもってふるさとのことを語っているからです。

ふるさについて寄せた言葉で、これほど思いの深い言葉を僕はほかに知りません。



まるで外国にまぎれこんだよう

万感胸に、思い深く

新潟市出身の新井満さんが二日間わたって、ふるさと新潟を再発見してみました。普段見なれたあの場所が、あの光景が、そんなに素敵で美しいとは、そして新潟にもこんな場所があったとは……

満さんがつぶやく言葉の中から新潟の新しい魅力があふれ出てきます。「新潟も素敵なお町だ！」そんな思いをきつと私たちに残してくれる満さんのモノローグ（独白）。

さあ、あなたも同じコースをたどってみてはいかがでしょう。うか。そして、満さんから贈られたあなた宛のメッセージに、新しい新潟のイメージを思い重ねてみて下さい。

## 外国人との出会い

### 生まれる「物語」も……

新潟港は貨物だけが入ってくる港だと思えます。客船が入ってほしいなあ。客船が入ってこそ国際港だもの。外国人に上陸してもらって新潟の町を見てほしいなあ。外国人との出会いが生まれれば、異国への憧れ、叙情も……、そして物語も生まれます。

それに、船が見え、ハーバーライトが見える高い場所、ライムなんかもほしいなあ。こんな世界、中どこにもあるし。客船が入れば可能なんだけれど……

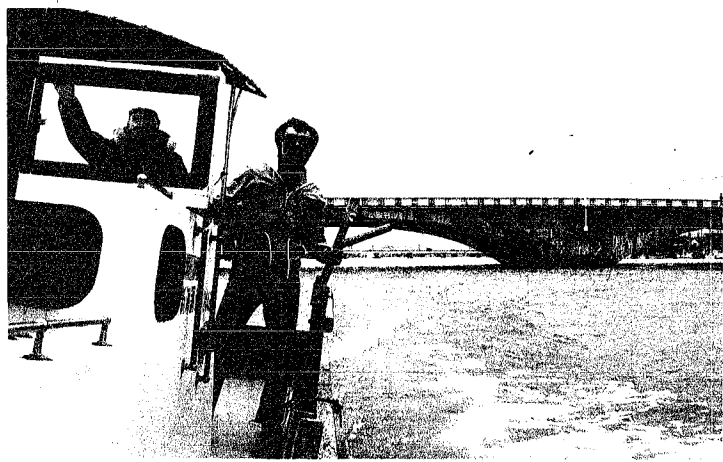
## 新潟西港



## 絶景ノ信濃川、万代橋アーチくぐり

新潟市生まれの僕は、何千回となく万代橋の上を歩きましたが、一度、舟でその下をくぐってみたいというのが長年の希望でした。初めて橋のアーチの下をくぐりました。「ああ」と大声を上げたら、反響しましたよ。まるでカラオケのようでした。

## 信濃川下り



もし、セーナ川のように遊覧船が……



## いいなあ、手作りの酒蔵は

― 仕込み歌が聞えてくる ―

市内の街の真中にこんな昔ながらの手作りの酒蔵があったなんて、びっくりしました。機械を使わない、全国的には有名でないけど、おいしい、そういう酒が地元にあったのはうれしかった。1本1本ラベルを貼ってゆくのはいいなあ……。手作りの酒蔵なんてもうないのかなあーって思っていたのに。

## 地酒の仕込み

封を開けて、見たけれど何も書いてなかったけれど、潮騒の音懐かしい声がある。元気がいるか……

（海から届いた手紙）

新潟の町に観光資源が少ないというなら作ればいいのです。幸運にも新潟には、日本海と坂口安吾と夕陽という三大スターが居るではありませんか。

日本海音楽祭や映画祭や安吾文学賞といった文化イベントを創設して、いつも日没時から始めるのです。そうして全国の人々に語りかけます。「上越新幹線あさひに乗って日本海のゆうひを見にいらっしやい！」

## 満さんから

### あなたへのメッセージ

美しいものは必ず減り、というよりは、減るからこそそれは美しいのかもしれない。海に没する直前に夕陽は最も美しく輝きます。

帰省するたびに寄居浜へ自転車を走らせ、安吾の碑の丘に立ちながら不思議に思うのは、もの好きな夕陽見物人がいつも私一人ではないということ。夏はもちろん寒風吹きすさぶ厳冬にも、人々はただ夕陽を見るだけの術を教えよう。それは、イマ

## あさひに乗って ゆうひを見に行く

ホテルの15階から見た夜景の中に、万代橋を東西に行き交うオレンジ色のヘッドライトが美しかった。欲を言えば、信濃川の上にイルミネーションをつけた遊覧船が浮んでいたらなあ……セーナ川のように。

## 夜景

美しいものは必ず減り、というよりは、減るからこそそれは美しいのかもしれない。海に没する直前に夕陽は最も美しく輝きます。

帰省するたびに寄居浜へ自転車を走らせ、安吾の碑の丘に立ちながら不思議に思うのは、もの好きな夕陽見物人がいつも私一人ではないということ。夏はもちろん寒風吹きすさぶ厳冬にも、人々はただ夕陽を見るだけの術を教えよう。それは、イマ

夕焼け色の手紙が届いた。発信人は、海